

3. 中央アジア・コーカサス地域

中央アジア・コーカサス地域は、ロシア、中国、南アジア、中東、欧州に囲まれていることから政治的にも地理的にも重要な地域です。また、石油、天然ガス、ウラン、レアメタル(希少金属)などのエネルギー・鉱物資源が豊富で、資源供給国の多様化を目指して、資源・エネルギー外交を展開する日本にとって戦略的に重要な地域です。そのため、この地域の安定と発展は、日本

を含むユーラシア地域全体の安定と発展にとっても重要です。この観点から日本は、人権、民主主義、市場経済、法の支配といった普遍的価値が根付くよう、そして同時にアフガニスタンやパキスタンなど、中央アジアに接する地域を含む広域的な視点も踏まえつつ、この地域の長期的な安定と持続的発展のための国づくりを支援しています。

＜日本の取組＞

日本は、計画経済体制から市場経済体制への移行と経済発展を支援するため、法制度の整備、保健医療など社会システムの再構築、経済発展に役立つインフラ整備(経済社会基盤)、市場経済化のための人材育成など様々な支援活動を行っています。たとえば、ウズベキスタンおよびキルギスにおける日本センター*では、日本の経験に基づくビジネスコースなどを提供することで、市場経済化に対応できる人材の育成に貢献しています。

カザフスタンおよびアゼルバイジャンのカスピ海沿岸には、世界有数の規模を誇る油田が存在し、日本企業も権益を有しています。この地域が安定し経済が発展することは、国際エネルギー市場の安定と国際社会のエネルギー資源の確保のためにも重要であり、公共サービスの改善や人材育成、発電所などのインフラ整備といった支援を行っています。



新たに建築され医療機材が整備されたアゼルバイジャン西部のザガダラ地区ガンダフ村診療所で、超音波検査機による診断を受ける妊婦(写真: 杉山史恵/在アゼルバイジャン日本大使館)

また、日本は、2004年に中央アジアの地域協力を進めることを目的として「中央アジア+日本」対話の枠組みを設立し、これまで外相会合や高級実務者会合を含めて様々なレベルでの対話や協力を実施しています。10周年を迎えた2014年7月には、キルギスにて第5回外相会合が開催されました。



2014年11月、タジキスタン・ドゥシャンベ市の消化器病院において医療機材の供与式でスピーチを行う園浦健太郎外務大臣政務官

●用語解説

日本センター

中央アジアやインドシナ地域の市場経済移行国における市場経済化を担う人材育成を目指し、日本の「顔の見える援助」として、また日本との人脈を築く拠点として、市場経済を目指す9か国に10センターが設置され、現在、7か国8センターでJICAプロジェクトを継続中(プロジェクト終了の2センターも現地で活動を継続)。ビジネスコース、日本語コース、相互理解促進事業を活動の柱としている。

中央アジア・コーカサス地域における日本の国際協力の方針



図表 II-10 中央アジア・コーカサス地域における日本の援助実績

2013年

(単位：百万ドル)

2015年

（単位：百万円）

順位	国または地域名	贈 与			計	政府貸付等			合計 (支出純額)	合計 (支出総額)
		無償資金協力		技術協力		貸付実行額 (A)	回収額 (B)	(A)－(B)		
		うち国際機関 を通じた贈与								
1	ウズベキスタン	3.88	—	9.78	13.66	42.83	26.38	16.45	30.11	56.49
2	アゼルバイジャン	1.76	—	1.57	3.33	52.63	13.10	39.52	42.85	55.96
3	グルジア	1.45	—	0.47	1.92	45.81	2.66	43.15	45.07	47.74
4	カザフスタン	0.70	—	2.41	3.11	33.88	43.31	−9.43	−6.32	36.99
5	タジキスタン	19.01	—	7.65	26.66	—	—	—	26.66	26.66
6	キルギス	6.64	2.09	11.23	17.87	—	0.39	−0.39	17.48	17.87
7	アルメニア	0.44	—	2.13	2.57	1.40	2.63	−1.24	1.33	3.96
8	トルクメニスタン	—	—	0.56	0.56	—	2.24	−2.24	−1.68	0.56
	中央アジア・ コーカサスの 複数国向け	1.61	1.61	0.62	2.23	—	—	—	2.23	2.23
中央アジア・ コーカサス地域合計		35.49	3.70	36.42	71.91	176.54	90.71	85.83	157.74	248.45

*1 順位は支出総額の多い順。

*2 無償資金協力には国際機関経由の援助のうち、国別に分類できる援助を含む。

*3 複数国向け援助とは、調査団の派遣やセミナー等、複数の国にまたがる援助を含む。

*4 国名はDAC援助受取国。ただし、合計は卒業国向け援助を含む。

*5 マイナスは貸付などの回収額が供与額を上回ったことを示す。

キルギス

輸出のための野菜種子生産振興プロジェクト
技術協カプロジェクト(2013年5月～実施中)

農業は、キルギスの人口の約3割が従事し、GDPの22%を占める産業の大きな柱の一つです。旧ソ連時代のキルギスは、乾燥した気候と恵まれた水源、そして広大な灌漑^{かんがい}用^{かんがい}地を活かし、穀物や野菜などの種子の一大生産地でした。しかし、旧ソ連の崩壊に伴い、生産技術が更新されず、普及させる体制も構築されないままの状況が続き、種子生産は著しく減少してしまいました。また、民間セクター主体で行われている野菜種子の生産を振興していく実施体制も整備されておらず、海外企業と取引できる生産技術を持つ生産者がいない状況です。

こうした状況を改善し、手ごろな価格で高品質な種子の生産能力を向上させ、野菜種子の生産がキルギスの輸出産業として盛んになるよう、日本による技術協力プロジェクトが開始されました。このプロジェクトの主な活動は、研修用農場での種子の試験栽培、マニュアルづくり、種子を生産する農家を対象とした研修の実施などです。

また、種子の生産の過程では様々な検査が行われます。このプロジェクトでは、プロジェクトの終了後も視野に入れ、キルギスの技術水準と資源で対応できるように検査技術を改善しています。さらに、野菜種子の生産者が経営管理能力を向上させるための研修に加え、輸出産業としての種子生産を支援するため、海外の種苗企業^{しゅひょう}と出会いの機会をつくる支援も行います。

このプロジェクトにより、種子生産農家の技術が向上して高い品質の種子の生産量が増加することはもちろん、種子生産農家が海外企業と連携して種子の輸出量が伸びることが見込まれています。ロシアなどの近隣諸国のニーズにも応えることが期待されています。

(2014年8月時点)



育苗施設におけるトレイを使った苗生産の現場
(写真：JICAキルギス事務所)



2014年7月、キルギスの首都ビシュケクにおいて、無償資金協力案件に関する交換公文の署名を行う岸田文雄外務大臣とラヴロヴァ財務大臣(後ろで拍手しているのはアブディルダエフ外務大臣)